

終業式に

令和6年3月22日

令和5年度が終わります。今年は本校にとって70周年という節目の年でした。これまでの歴史を振り返り、それを新しい時代を作る力にする。節目の年にはそういう役割がありますが、皆さんは、この節目の年にどんな力をつけたでしょうか。

今年度の初めに「チャンピオンたれ」という言葉を大事にしてもらいたいとお話をしました。覚えていますか？

a person who fights for, or speaks in support of, a group of people or a belief  
です。

誰かのために、何かを守るために、あるいは誰かの代弁者として戦うものとしての「チャンピオン」になってほしいということを伝えました。

私は、皆さんの中にある、痛みを感じる強い感受性に期待をしています。それが自分自身を守ることに過度に発揮されれば、ただのわがままや自分さえよければそれでいいという自己中心的な行動になってしまいますが、人の痛みを自分事として考える方向に発揮されれば、声を上げることのできない誰かのために戦う力として、虐げられ、苦難の道を歩んでいる人たちの未来を支えることができるはずです。

教室での学びも、部活動での学びも、校外学習での学びも、学ぶことすべてに無駄なことはありません。学ぶことは自分の中に「種」をまくことだからです。

「種」はいつか芽をだし、花開く時を迎えるでしょう。けれども、自分の土を耕すことを怠ったり、種の扱いがぞんざいだったりすれば、それは残念な結果に終わってしまいます。

夏目漱石はこんなことを言っています。

「あなたが今まく種はやがて、あなたの未来となって現れる」

今年、あなたのまいた学びの種はあなたの未来を切り開いていくものになっていますか。まいた「種」のなかにチャンピオンとなる種はありましたか。

先日開催されたSDGsのシンポジウムで、SDGsに取り組んでどんなことに気づきましたか。という会場からの問いに、エイズ啓発活動について発表した生徒会のある生徒が「私たちが女子高で学ぶことは、声を上げられない女の子たちの力になることにつながっていることだということだと気づきました。」という趣旨の発言をしてくれました。ああ、この人たちの中には「チャンピオンの種」が育っているなあと感慨深くその発言をかみしめました。

この皆美が丘で学ぶすべての皆さんの心の中に、声を上げることのできない誰かのために戦う「チャンピオン」が育ったら、世界は大きく変わると思っています。だって、女子高生は最強だから。

新年度、「チャンピオン」への旅が新たにまた始まります。この春休みによりよい種がまけるよう、自分を耕す時間をしっかりもってください。

校長 中村 訓子